

新型コロナウイルスが 生活に与えるインパクト

新型コロナウイルスは世界各地で猛威を振るい、7月14日現在で感染者数1,299万人、死者数57万人という約100年前のスペイン風邪以来の大規模なパンデミックをもたらした。当初は短期戦と思われていたウイルスとの闘いであるが、専門家によればワクチンの開発、普及には相当の時間を要する持久戦になることが確実視されている。

国際通貨基金（IMF）は4月14日に改定した世界経済見通しで、2020年度の成長率予測をマイナス3.0%に引き下げた。感染者数が世界最大のアメリカは、マイナス5.9%と急激な景気悪化が避けられないのではないかとされている。日本も5.2%のマイナス成長という予測であり、2009年（マイナス5.4%）以来の大幅な落ち込みとなりそうである。

■図表 世界経済の2020年度の成長率予測



出典：knoema「IME データより世界経済成長率を視覚化」

政府はこれに対して大規模な財政・金融政策を打ち出しているが、第2波、第3波のリスクもあり、大胆な経済活性化策が打ち難い状況にある。

一方で、その間に、この局面を打開するべく、私たちの生活においては、新たな流れが生まれてきている。

コロナウイルスの感染が日本に広がり始めたころは、「アフターコロナはどうなるのか」について語られていたが、今は「ウィズコロナの中で、どのように生活、仕事をしていくのか」になっている。ウイルスとの向き合い方が、どのような生活を送るかに大きく関係してくるようになった。例えば、「ウィズコロナ」では、新型コロナの感染特徴から、「3密にならない」ことが感染防止拡大のためには重要である。こ

のことから、接触率が低い在宅ワークやオンライン会議が選択されるようになった。

では、コロナウイルスの驚異が減った「アフターコロナ」では、非接触重視の生活はなくなるのか、もとの戻るのか。その生活や方法が習慣化した、または、その魅力に気づいた場合は、もとの戻らないし、それほどでもなかった場合はもとの戻る。

「アフターコロナ」になった時の状況を今の状況で予測することは難しいが、「ウィズコロナ」の今、企業は、生活者は、どのように過ごしているのか、過ごしていこうとしているのか。ウィズコロナの今だからこそわかる事実・現象をとらえ、今後のトレンドを予測する一助になればと思う。